

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3390200289		
法人名	株式会社 縁		
事業所名	グループホーム倉敷・楽々苑		
所在地	岡山県倉敷市西岡1153番地		
自己評価作成日	平成24年11月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=3390200289-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=3390200289-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成24年12月10日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>運営理念にあるように、自然の中で安心又快適に、その人らしく個性や能力を活かし穏やかに過ごして頂けるように心がけています。 医療や歯科等も往診して頂き、又体調不良時にも対応して頂く等、医療面にも安心して過ごして頂いています。地域の方との交流にも参加させて頂く等し、楽しく、快適に過ごして頂けるように配慮しています。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>通りから少し奥に入った所に立地し、窓から田畑が見え、季節を感じる事ができる。玄関には広いスロープが設けられ、利用者も出入りしやすい。玄関を入ると、行事の写真や畑で採れた野菜の写真など掲示しており、日常生活の様子や温かい雰囲気を感じる。ホーム長の様々な経験から得た認知症に対する理解を折にふれて職員に伝えており、利用者がその人らしく穏やかに過ごせるような支援ができるよう人材育成に努めている。地域との交流にも力を入れており、町内会に入会し、掃除などにも参加している。また、倉敷キリスト教会とは開所当時からお付き合いがあり、バザーやイベントなどお互いに行き来が続いている。主治医の協力もあり、医療機関との連携がしっかり取れており、利用者の体調や様子など随時連絡するなど、家族は安心して預ける事ができる。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当苑での理念「自然・安心・快適」を毎朝皆で唱和している。全職員が把握し、理念に添ったサービスを提供している。	毎朝、申し送りにて理念と論語から抽出した16章を一つずつ、唱和している。「自然の中で、安心して、快適に過ごして頂く」という理念の下、職員は支援を行っている。そのためにも利用者の思いを聴き、その人らしい生活が何かを考えるよう心掛けている。	論語から抽出した16章について、説明をお聞きするととても良い意味があると分かるのですが、読んだだけでは理解しづらいと思います。1章ずつ、勉強会などで職員に理解を促し、意識して日頃の支援に活かせるようにして頂くことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として地域の方との交流を深めている。	町内会に入会しており、回覧板を回したり、夏祭りや掃除などの催しにも参加している。また近隣を散歩するときには近所の方と挨拶を交わす等の交流もある。近くの倉敷キリスト教会とは長い付き合いがあり、運営推進会議にも参加してくれており、お互いに行き来をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のお祭りやバザーに参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議は定期的に行っており、会議の内容をご家族に報告し意見を取り入れサービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回、定期的を開催している。地域包括支援センター職員、介護保険課担当者、民生委員、自治会長、公民館長、他のGH職員等いろいろな方が参加しており、情報交換や意見交換の場となっている。遠方に住んでいる家族が多く、会議への参加は少ないが、会議の内容は家族に報告し、意見を伺っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議に参加や市の介護保険課に出向きサービスの取り組みを伝え向上に努めている。	運営推進会議を中心に情報交換し、連携を図っている。また、地域のケアマネ会議や地域包括支援センターが主催する勉強会には積極的に参加し、顔なじみの関係を作るよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修の中の1つとして勉強会を行い、身体拘束マニュアルを作成している。	身体拘束について研修を行っている。職員が順番で講師になり研修を行うことで、それぞれが身体拘束についてより深く知ることができている。安全のため、玄関の施錠を行っているが、10時～12時の職員が多い時間帯は開錠するなど少しでも施錠時間を減らす努力をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修として勉強会を行い、高齢者虐待防止マニュアルを参考にしスタッフ全員共同認識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現在成年後見制度を活用されている利用者もおられる。勉強会においても制度を理解するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時より契約に至るまで、電話連絡により、不安や疑問点など説明し理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話で家族の意見を聴き運営に反映している。	家族の希望を出来るだけ取り入れるよう心掛けている。例えば家族が本人が歩くことを希望している場合、職員の判断で車椅子使用へ移行せず、どうすれば歩行できるか、2人で両脇を抱えれば歩くことができるのはいか等検討し、要望に応えるようにしている。そういったやり取りの中から信頼関係を築けるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員の意見を聞いたり、ミーティングなど行い運営に反映させている。	職員から利用者の支援に関する提案や意見、問いかけが多く、一緒に検討し、出来ることは取り入れている。また、年1回個人面談を行っており、職員一人ひとりの希望や意見を聞く機会を設け、反映できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実践者、管理者研修、介護福祉士や介護支援専門員の資格修得の支援をし、習得出来るように支援し、資格取得後は各自向上心を持ち仕事等に活かせるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は誰でも行けるようにしている。資格修得希望者には勤務上の配慮を行っている。苑内でも勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議に参加させて頂いたり介護支援専門交流会等に参加し質の向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が希望される事や又不安に思っている事、困っていること等を聴ける環境作りをし、受け止めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは密に連絡を取りこれまでの家族の苦勞、利用開始までの経緯等も聞き良い関係作りが出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する段階で家族が必要としているサービスを見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でされて嫌な事はしない、との思いを職員間で話し支え合う関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人などが訪ねて来られるように、電話等 行い支援に努めている。	昔の友人や知人の面会もあり、今後も気軽に訪ねてもらえるよう配慮している。また、手紙や年賀状なども本人の希望を聞き、継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に全体の雰囲気を観察し、お互いコミュニケーションが取れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもこれまでの関係を大切に し相談連絡が出来る関係に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向の把握に努めている。職員は共有している。	1人ひとりと話をし、本人の希望や思いを把握するようにしている。それぞれ生活習慣があり、事業所での生活になじむまでには時間がかかる。例えばコーヒーの好みひとつにしてもそれぞれの違っている。本人や家族から生活歴や習慣、好みを聞き、本人が安心して穏やかに生活ができるような支援を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族面会時等にこれまでの本人の生活歴、生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動記録、バイタルチェック表、ケアプランにより把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを実施し本人家族や必要な関係者と話し合いをし、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランは、カンファレンスにて職員が意見を出し合い、ケアマネージャーを中心に作成している。各ユニット毎に、利用者が望む生活に近付けるにはどういう支援が必要か随時、検討している。家族にも電話等で意見や希望を聞き、反映するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を記入し職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所同士の情報交換により、本人や家族の希望に添える支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の教会を訪問し交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望により、かかりつけ医を決めている。かかりつけ医と事業所の関係は良く、何事も相談出来る体制をとっている。	月2回の往診、週1回の訪問看護により健康管理を行っている。本人の希望で入居前からのかかりつけ医に通院している場合もある。協力医療機関には24時間いつでも連絡や相談ができる体制ができており、医師も協力的である。また、薬剤師による指導が月2回あり、薬に関する情報や服薬方法などの指導を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	I / 週回訪問看護師に来て頂き、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者と話し合いながら早期に退院を含め情報交換や相談が出来る関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を聴きそれに添って重度化に伴う意思の確認をし説明を行って医師の往診を受ける等支援している。	家族の希望があれば、看取りの支援を行っている。医師や訪問看護師の協力もあり、家族への説明を随時行い、意思を確認しながら方針を共有している。入院中に本人や家族の希望によりGHIに外泊して穏やかな時間を過ごした方もおられる。緊急時の対応や職員のメンタル面をフォローする勉強会も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	職員で勉強会を度々行い全員で話し合い実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害の避難訓練を定期的に行っている。	定期的に避難訓練を実施している。消防署の指導を受け、緊急通報装置の操作方法や消火訓練等行っている。夜間を想定した避難誘導や緊急連絡網による連絡など今後も訓練を重ねていく予定である。	火災や災害時にはやはり地域の方の協力が必要だと思われます。避難訓練の実施の際、参加して頂けるようお知らせなどしてはいかがでしょうか。また、備蓄食料、水などの準備についても検討して頂くことを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し親しみの中にも礼節を保ち言葉掛けを行っている。	個々のプライバシーを大切に、自尊心を傷つけないよう言葉かけを行っている。トイレ誘導など恥ずかしさを考慮し、そっと声をかけるように心がけている。本人が自然に何かしようと思えるよう、その人に合った声かけを考え、実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが本人の思いや希望が言えるように、日々密接な関係が保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりが身体状況に合った暮らしが出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師に来て頂きカットをしてもらい、身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとり身体状況に合わせ、食事や飲み物を提供している。	できるだけ利用者と過ごす時間を増やすため、食事は外部業者よりレトルトパックを活用している。おかずを本人が食べやすい丼に仕立てる等工夫し、できるだけ自分で食べる事ができるようにしている。畑で採れた野菜は漬物や汁物の具材に使用し、楽しんでいる。また、行事の日にはのり巻や散らし寿司など手作りし、喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり状況や習慣に合わせた食事、水分量が確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔状況に合わせて口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて一人ひとりのパターンに添って支援している。	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。一時期、パットの使用枚数が増加傾向にあり、本人に合わせたパットの使用やトイレ誘導を見直し、徐々に使用量を減らすことができた。スムーズな排便のため、レモン水など水分摂取や朝食にサツマイモ、青汁の提供など工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレ誘導、内服等を実施しスムーズな排泄を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間、シャワー浴など本人の希望に添った入浴を支援している。	基本的に週3回、入浴支援を行っている。1番に入りたいなど本人の気持ちを大切に支援している。入浴を拒否されることもあるが、職員の声のかけ方や時間を変えるなどし、対応している。浴室は洗い場も広く、窓が大きく明るい。使用するタオルは毎晩、次亜塩素水で消毒する等衛生面にも注意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣、就寝時間や睡眠パターンを把握し昼寝も状況に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服チェック表にて職員は一人ひとりの確認が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの役割や楽しみ事等気分転換が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族と共に外に出られるように支援しているし地域の行事にも地域の人たちの協力を得ながら支援している。個々に散歩に行かれる等支援している。	天気のいい日にはできるだけ毎日近隣を散歩したり、庭に出て花や畑を見るなど外気浴ができるよう努めている。初詣やお雛めぐり、お花見、紫陽花めぐりなど季節毎に外出を企画している。また、家族の協力により外出や外食など楽しまれている利用者もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望もあり金銭は持たないようにしている。本人の希望で欲しいものがあれば購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は季節の貼り絵など作成し、季節感を取り入れている。ソファを置き生活間を出せるように工夫している。	フロアは明るく、車椅子で移動しやすいようシンプルな空間作りをしている。ソファも配置され、利用者はそれぞれの居場所で寛ぐことができる。ウッドデッキも広く、洗濯物を干したり、天気の良い日には日向ぼっこなど楽しんでいる。壁には季節毎の貼り絵や習字、職員が書いた似顔絵、切り絵など飾られ、温かい雰囲気を感じられる。	感染症の予防として加湿器や濡れタオルを干す等により湿度管理にも配慮されていますが、広さもありませんか湿度が上がらないとお聞きしました。加湿器の台数を増やすなど検討して頂くことを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気が合う利用者同士お話しされたり、貼り絵や体操をされたりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にて家族とお話しされたり、お茶を飲んで頂いている。	お部屋には本人の塗り絵やアンデルセン作品、家族が送って来てくれた写真や絵手紙など飾られており、それぞれの雰囲気がある。出窓が広く、外を眺める事もでき、室内は明るい。光触媒観葉植物を飾る等のこだわりも見られる。また、トイレ付の居室が4部屋用意されており、場合によっては利用者を選んで頂くこともできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり出来ることは自分でして頂くなど自立した生活が送れるようにしている。		